

1 小学校中学年 学級活動指導案

1 題材 「耳に障害のある友達と一緒にしりとりを楽しもう」

内容 (2) イ よりよい人間関係の形成

2 題材設定の理由

障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会の実現を目指し、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、学校教育においても一人一人に応じた合理的配慮の提供が求められている。障害のある児童が、他の児童と平等に教育を受けられるように、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等を理解し合えるように話し合い、何ができるのか、互いに考えていくことが望まれている。

そこで、本題材では、ロールプレイにより障害のある児童と同じ立場での模擬体験をすることで、互いのことを知る場面を設定した。そして、困っていることに気付いたり、「手伝って」「困っている」と言えたりする力を育てたいと考えた。障害のある児童の立場に立ち、どうすれば一緒に楽しくゲームをすることができるかについて児童同士で考え、互いに関わり合いながら解決することで、共に学び、共に育とうとする児童を育成したいと考え、本題材を設定した。

3 指導のねらい

話し合い活動やロールプレイを通して、相手の思いに気づき、相手の立場に立って考え、行動できるようにする。

4 評価規準 (平成31年度までの観点を示しています)

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
ロールプレイを通して、障害のある人の思いに気づき、共に行動しようとしている。	障害のある人を理解し、状況に応じて支援できる方法を考え、実践している。	相手の立場に立って考え、行動する大切さについて理解している。

5 人権教育上のねらい (障害のある人)

障害のある人が日常生活で感じている思いに気づき、障害のある人と共に生活しようとする態度や心情を育てる。

6 人権教育上の視点

- (1) 障害を理由とした差別が法律で禁止されていることを理解している。 (知識)
- (2) ロールプレイで障害による参加制限を体験することで、障害のある人の思いに気づき、障害のある人と共に生活しようとしている。 (価値・態度)

- (3) 様々なコミュニケーションの方法があることに気付き、相手に応じた方法を使うことができる。(技能)

7 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆目指す児童の姿（観点）【評価方法】	資料等	時間
導入	<p>1 パラリンピック等の写真を見せ、「障害（者）」について知っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足が不自由。 ・目が見えない。 ・耳が聞こえない。 ・車いすを使っている人がいる。 ・盲導犬を連れている人がいる。 <p>2 障害のある人の参加制限やその理由について考える。 (→参加制限、※理由例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足が不自由である。 →自由に行動できない。 ※段差があるから。 ・目が見えない。 →読むことができない。 →見ることができない。 ※視覚情報しかないから。 ・耳が聞こえない。 →話している内容が分からない。 →会話ができない。 ※話し言葉だけを使っているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック等の写真を見ることで、障害のある人について想起し、学習への意欲をもてるようにする。 ・知的な障害や、情緒的な障害については学級の児童の実態に配慮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・障害があることによる不自由さや困難さを考えることで、参加制限について理解できるようにする。 ・障害のあることによってなぜ参加制限があるのかも考えられるように助言する。 	写真1 写真2 写真3	5分

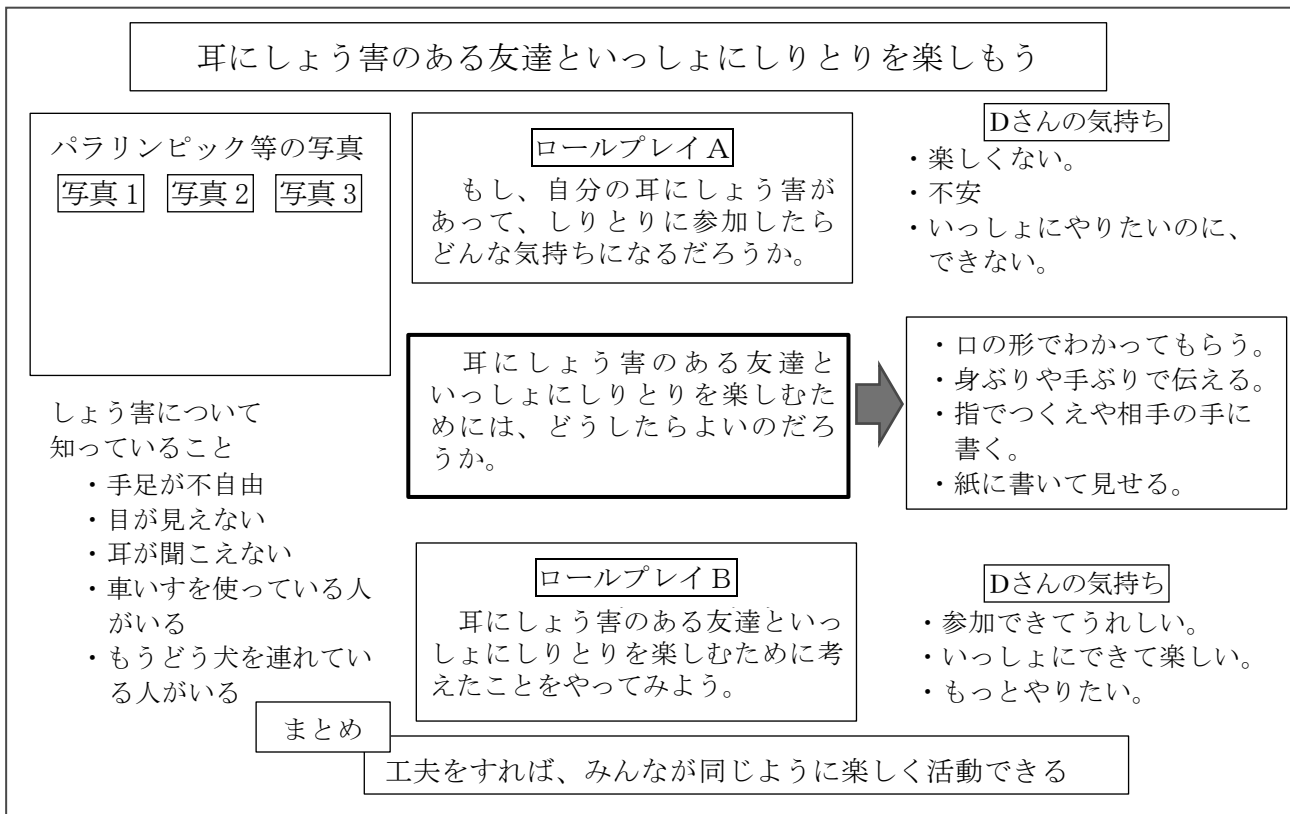
展 開	3 本時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人がみんなと同じように生活するためにどうしたらよいか考えることを確認する。 	30 分
	耳にしょう害のある友達といっしょにしりとりを楽しもう。		
	4 ロールプレイAを行う。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ロールプレイA </div> <p>「もし、自分の耳にしょう害があって、しりとりに参加したらどんな気持ちになるだろうか。」</p> <p>児童A：りんご 児童B：ゴリラ 児童C：ラッパ 児童D：(だまっている) ※児童Dを自分と考える</p>		
	5 児童D（耳に障害のある児童）の気持ちを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が児童D（耳に障害のある児童）の役を体験できるように、4人程度のグループを作る。 ・ロールプレイを通して、聴覚障害のある人の気持ちを考えられるようにする。 ・自分のこととして考えられるように、児童Dの気持ちを発表させる。 	
	6 耳に障害のある友達と一緒にしりとりを楽しむために、どうしたらよいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害のある人がしりとりに参加できるようにする方法をグループで話し合う。 ・障害のある人を助けてあげようという視点ではなく、一緒に楽しむためにどうするかを話し合うようにする。 	

展	<ul style="list-style-type: none"> ・紙に書いてみせるのはどうだろう。 ・手話を使う。 <p>7 話し合ったことをもとにロールプレイ B を行う。</p>		
		<p>ロールプレイ B</p> <p>「耳にしょう害のある友達といっしょにしりとりを楽しむために考えたことをやってみよう。」</p> <p>(例) 児童 A : 紙に書いて D さんに見せるね。 (それぞれのグループで話し合ったやり方を確認する。)</p> <p>児童 A : りんご 児童 B : ゴリラ 児童 C : ラッパ 児童 D : 紙にパジャマと書いてみんなに見せる。</p>	
開	<p>8 児童 D の気持ちを書いて、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加できてうれしい。 ・一緒にできて楽しい。 ・もっとやりたい。 ・楽しくなったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを実践することができるように、しりとりが書ける用紙やペンを用意しておく。 ・机間巡視をし、ロールプレイ B のねらいとずれているグループには、ねらいにそった活動ができるように助言する。 ・ロールプレイ A とロールプレイ B の体験を比較した感想をワークシートに書き、学級全体で共有できるようにする。 <p>◎ロールプレイ体験を通して、気付いたことや感じたことを学級全体で共有することで、様々なコミュニケーションの方法があることに気付き、相手に応じた方法を実践できるようにする。 (技能)</p> <p>☆障害のある人を理解し、状況に応じて支援できる方法を考え、実践している。 (思考・判断・実践) 【記述・ロールプレイの様子】</p>	ワークシート1

展 開	<p>9 障害者差別解消法について知る。</p>	<p>◎平成28年4月1日からいわゆる「障害者差別解消法」が施行され、障害を理由とした差別が法律で禁止されていることを押さえる。 (知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発達の段階から「合理的配慮の提供」という言葉の意味には深入りしないが、本時の活動が合理的配慮の提供の考え方につながることに触れる。 ・ 障害のある人も合理的配慮の提供によって、障害のない人と同じように生活できることに気付けるようにする。 ・ 聴覚障害のある人とコミュニケーションを取る方法として手話があることに触れる。 <p>◎「障害のある人もない人も、みんなと一緒に楽しく生活できるようにするための法律であること」を押さえる。 (知識)</p>		
終 末	<p>10 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害があっても、少し工夫すればみんなと同じように楽しめることが分かった。 ・ しりとりだけでなく、他の遊びも考えたい。 ・ 障害がある人も、みんなと一緒に楽しみたいという思いは、同じだと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習をふり返り、ワークシートに気付いたことや考えたことを記入することで、自己を見つめられるようにする。 ・ 学級全体で共有できるように、気付いたことや考えたことを発表する場を設ける。 <p>◎児童の気付きや考えを共感的に受け止めることで、障害のある人と共に生活しようとする態度を育む。 (価値・態度)</p>	ワークシート1	10分

終 末	<p>☆ロールプレイを通して、障害のある人の思いに気付き、共に生活しようとしている。 (関心・意欲・態度)【発言・記述】</p> <p>☆相手の立場に立って考え、行動する大切さについて理解している。 (知識・理解)【発言・記述】</p> <p>・ 障害の有無に関わらず、少しの工夫でみんなが楽しむことができたことを伝え、児童の視野を広げられるようにする。</p>
--------	---

8 板書計画



9 添付資料

ワークシート1 いっしょにやろう P.8

写真1 安達 阿記子 選手 (ゴールボール) 提供: リーラス株式会社 P.9

写真2 岸 光太郎 選手 (ウィルチェアラグビー) 提供: 株式会社つなひろワールド P.9

写真3 高桑 早生 選手 (陸上競技) 提供: エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 P.9

いっしょにやろう

年 組 番 名前

☆かだい

--

① ロールプレイAで、Dさんの役をやったときの感想を書きましょう。

② 耳にしょう害のある友達といっしょにしりとりを楽しむためには、どうしたらよいか考えましょう。また、その理由も書きましょう。

どうする	
理由	

③ ロールプレイBで、Dさんの役をやったときの感想を書きましょう。

☆今日の授業で気がついたことや考えたことを書きましょう。

写真1



リーフラス株式会社 提供

あだち あきこ
安達 阿記子 選手（ゴールボール）

1983年生まれ

埼玉県所沢市在住

リーフラス株式会社所属

黄斑変性症を14歳の時に右目、20歳の時に左目に発症し、視覚障害になる。

主な経歴

2008年 北京パラリンピック出場

2012年 ロンドンパラリンピック女子団体 金メダル

2016年 リオデジャネイロパラリンピック出場

写真2



株式会社つなひろワールド 提供

きし こうたろう
岸 光太郎 選手（ウィルチェアラグビー）

1971年生まれ

埼玉県さいたま市出身 埼玉県熊谷市在住

A X E（アックス）所属

大学生の時に事故で頸髄を損傷し、下半身不随となる。

主な経歴

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル
彩の国スポーツ功労賞 受賞

写真3



エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 提供

たかくわ さき
高桑 早生 選手（陸上競技）

1992年生まれ

埼玉県熊谷市出身

エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社所属

小学6年生で骨肉種を発症し、中学1年生で左足膝下を切断する。

主な経歴

2012年 ロンドンパラリンピック 100m 7位 200m 7位

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 100m 8位 200m 7位 走幅跳 5位

2017年 世界パラ陸上選手権大会ロンドン2017 走幅跳 5位

※ カラー写真は、人権教育課ホームページに掲載されています。
なお、本授業実践に係る使用以外での写真使用はできません。